

金沢市立内川小学校
平成 28 年度 学力向上の取組（2 学期）

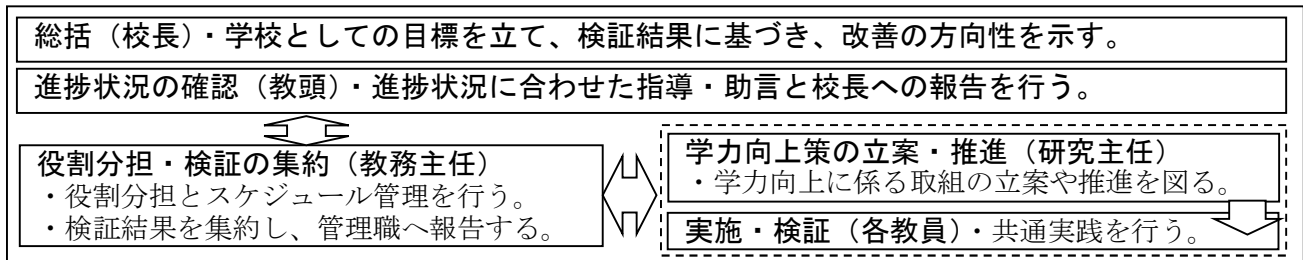
1 現状・課題（平成 28 年度 学力分析シートから見える現状・課題）

| |
|--|
| <p>(1) 全国学力・学習状況調査、県基礎学力調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国語 A1-1「快晴」の読みができていない子が 4 人中 3 人いた。その他の問題でも躓きが見られた。このことから学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読んだり書いたりすることが十分に定着していない。 ・国語 B 平均正答率の経年変化では、年々その差が開いている。特に書くことの領域では、全国平均を下回る。 ・算数 B3-(1)の乗法、除法の式の意味の問題では、4 人中全員誤解答であった。 ・社会では、複数の資料からの読み取りが県平均よりも大きく下回っている。 ・理科では、気温の変化を読み取る際の説明に関する解答が県平均よりも下回っている。 <p>(2) 児童生徒質問紙（金沢型学習スタイルに関する設問について）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・質問紙 48「授業では自分の考えを発表する機会が与えられていたか」では 1 と 2 を合わせた数値が 3 年連続 100% に達しているが、1 の割合は 66%から 0%に下がった。 ・質問紙 54「授業では振り返る活動をよく行っていた」では 1 と 2 を合わせた数値が上がってきた。 ・質問紙 39「学校のきまりを守っている」では、1 と 2 を合わせた数値が下がってきている。 ・学校自己評価の児童アンケート項目の「算数の時間のまとめをキーワードでまとめたり、自分たちの言葉で考えたりすることができましたか」では 1 と 2 の割合が 70%を超えたが「あまりできなかった」と答えた子が約 29% の児童がいた。2 学期では教師が常に意識を持ち、学習のまとめをしていく必要がある。 |
|--|

2 重点的に行う取組と検証

| | | 授業で行う取組 | | 授業以外で行う取組 | |
|----------|---------|--|--|---|---|
| | | 取組① | 取組② | 取組① | 取組② |
| 重点的に行う取組 | | 算数用語を使い、まとめを自分の言葉で書く。 | 根拠や考えた過程を、言葉や図、式等を使ってノートに自分の考えを書く。 | 毎週末に、家庭学習で目的に合った文や、条件付きの文を書くことに取り組ませる。 | 朝学習をモジュール型で取り組み、基礎学力の定着をはか |
| 検証の方法と指標 | 指導の状況 | 方法算数の時間に、算数用語を使って、まとめを指導する。 指標 教師アンケートで実施率 80% | 方法良いノートの手本を示し、指導する。 指標 月 2 回以上ノートを持ち寄り、指導状況を把握。 | 方法日記帳、頑張りノート（自学ノート）等で状況を確認。 指標 週 1 回以上。 | 方法音読・漢字・計算を繰り返し練習させる。 指標 毎週。 |
| | 児童生徒の状況 | 方法算数ノートで確認。 指標 学期末の児童アンケートの肯定的な意見の割合が 80%以上 | 方法毎月末の児童学習アンケートで確認。 指標 毎月の児童アンケートの肯定的な意見の割合が 70%以上 | 方法毎週末に量、内容をなど条件に合わせて日記帳などに書く。 指標 学期末の児童アンケートで肯定的な意見の割合が 75%以上 | 方法学期末の漢字・計算（技能）のまとめテストで確認。 指標 1 学期の得点より高い得点をとれた児童の割合が 50%以上 |

3 年間計画



| 月 | PDCA | 授業で行う取組 | 研究授業 | 授業以外で行う取組 |
|-----|----------|--|------|--|
| 9月 | 計画 | 研究主任 ・学力向上策（2学期）を立案 教務主任 が小部会を設定し、研究主任の提案を受け、全教員が具体的な取組について共通理解する。 | 紺谷教諭 | 研究主任 ・朝学習を見直し、全校での取り組み状況を確認 |
| 10月 | 実践 | 全職員 【日々の授業での取組】 ・学力調査で課題になった点や単元を具体策の実施により授業改善 | 坂口教諭 | 研究主任 ・小部会で研究の取り組み状況確認 ・全校児童の状況を判断し、取組を継続していくか、改善し取組むかを提案する。 |
| 11月 | 検証 改善 | 全職員 ・評価問題の事前指導 ・評価問題に向けての補充教室（～12月） 研究主任 が指導の状況を確認し、 教務主任 と 教頭 ともに改善策を提案する。 | 野村講師 | 研究主任 ・小部会で研究の取り組み状況確認 ・全校児童の状況を判断し、取組を継続していくか、改善し取組むかを提案する。 |
| 12月 | 検証 | 全職員 ・評価問題の事前指導 教務主任 が学力向上策の状況についての達成状況をまとめる。 | | 研究主任 ・全校の取り組みを定着度テストで確認 |
| | | 県評価問題Ⅰを「学力向上の取組（2学期）」の検証の機会とする。 | | |
| | | 校長・教頭・教務主任・研究主任 が2学期の成果と課題を整理する。 | | |

平成29年1月以降は、「学力向上の取組（3学期）」に基づき実践するため、各学校は以下の内容について、加除修正する必要はない。

| | |
|----|---|
| 1月 | 県評価問題Ⅰの結果に基づき、「学力分析シート」を作成する。 分析結果から「学力向上の取組（3学期）」を作成する。 |
| 2月 | 「学力向上の取組（3学期）」に基づき実践・検証・改善を行う。 |
| 3月 | 県評価問題Ⅱを「学力向上の取組（3学期）」の検証の機会とする。 |